



Minami-hatoba_1(Shirouyasu_Suzuki)

2005-02-28

かわなかさんをお見舞いに行く。

27日、トイレで「転換の書 メ・ティ」、「ズー国についての対話」として書かれたソ連の話。昨日プレヒト巡りを纏めたことで、プレヒトの当時の政治体制をもちに身に受けている意識とわたしの現在の政治意識の希薄さを認めないではられない気持ちでへこんでくるのを、ストレッチ体操で跳ねとばす。起きたのが遅かったので、日録を書いて、玄関の階段に封を切らないで積み上げられている郵便物を整理したら、2時近くになっていて、麻理が作ったきつねうどんと一緒に昼食。それから、出掛けて、井の頭通りでタクシーを拾い、青山病院に入院しているかわなかのぶひろさんをお見舞いに行った。入院当初からWebに書かれている「[闘病日記](#)」を読んでいて、今月には退院と書かれていたので、その回復の早いのに驚き、お見舞いに行った。病室のかわなかさんは、造形大の教え子3人と歓談していて元気なので安心した。昨年顔を合わせたときより健康そうな印象だった。2、30分話してお暇したが、エレベータのところまで送ってきてくれた。わたしはそれから青山ブックセンターに立ち寄って書棚を一巡して、宮益坂を下って、渋谷駅前を歩いてブック1stで広渡常敏著「ナイーヴな世界へ プレヒトの芝居小屋 稽古場の手帖」と、「プレヒト教育劇集」と、斎藤憐「プレヒト・オペラ」を買って、一階の喫茶店「Cafe ma maison」でコーヒーを飲みながら、広渡常敏さんの本のあとがきを読んだ。それから、東急本店の地下で、長ネギ、沖縄産カボチャ、ゴボウ、里芋、オリーブの缶詰、ハム、煎餅、蜂蜜、りんごなどを買ってタクシーで帰宅した。居間でお茶を飲んでから、仕事場に行って、「極私的に遂に古稀」の編集にちょっと手を入れ、麻理がステーキが出来たというので夕食。食後、ベッドに横になって「義経」を見て、引き続きNスぺの津波の番組を見てから仕事場に行き、ビデオの編集。風呂に火をつけて編集しているうちに、忘れてしまい、沸きすぎて、入るときにかなりの水でうめなければならなかった。風呂から出て、牛乳を飲んでまた仕事場で今度はblogの書き込み。

02:15:16 - shirouyasu - No comments

2005-02-27

「曲腰徒歩新聞」ようやく2月2度目の更新。

26日は家から一步も外に出なかった。トイレで読んだ「転換の書 メ・ティ」の昨日読んだ「認識の限界を探ること」の項目がよく分からないのもう一度読む。要するに、感覚による認識の限界は広げた方がいいが、観念的な存在についての認識の限界は探ることはないということか。午後は、チューリップの蕾の画像を撮り、このところ更新してない「[曲腰徒歩新聞](#)」の記事を書いた。2月はプレヒト一色で過ごしたことの纏めだ。このblogのアイテムを見ながら、何時何処で何を見て何を讀んだか、というのを纏めた。去年の12月にはこんなにプレヒトに深入りするなんて思ってみなかった。夕方、麻理が出掛けているので、プレーンオムレツを作って、肉じゃがの残り一人で夕食。それから、BSの越路吹雪の歌を聴きながら仮眠。居間に下りてスポーツニュースで楽天対巨人のオープン戦の結果を見た。それから仕事場に下りて「曲腰徒歩新聞」の記事を仕上げたら12時を廻っていた。リンゴと牛乳と角きんつばで一休みして、再び仕事場に戻りblogに書き込む。

なお、わたしが読んでいる「転換の書 メ・ティ」はWebにあります。

[「転換の書 メ・ティ」](#)

00:56:15 - shirouyasu - No comments

Navigation

[Previous 月](#)

[Next 月](#)

[Today](#)

[Archives](#)

[Admin Area](#)

Categories

[All](#)

[General](#)

灰皿町の本

●[幻想小説『なめくじキーホルダー』清水鱈造](#)

●[「週刊読書人」詩時評一九九二-一九九三年 清水鱈造批評集 第二分冊](#)

Search

2005-02-26

ブレヒト作「セチュアンの善人」を読み終える。

25日は朝食後トイレで「転換の書 メ・ティ」を読む。「国のなかで特別な道徳など必要とされてはならない」という項と、「認識の限界を探ること」という項を読む。道徳のことは「セチュアンの善人」のテーマに重なっている。今日も、鍵開けの日なのでストレッチ体操をしないで、11時過ぎに出掛けて、上野毛の「幸楽飯店」でチャーシュー麺を食べて、コンビニで和風弁当とインスタント豚汁を買って多摩美の研究室へ。演劇スタジオ、B棟、暗室の鍵を開けて暖房を入れる。校庭にはまだ雪が残っていた。研究室に戻って暫くすると斉藤君が来て暗室へ、それから福村さんが来てフィルム編集室と録音室の鍵を開ける。2時廻って、演劇スタジオに行き、「母アンナ・ファイアリングとその子供たち」の稽古に立ち会う。一つのシーンが出来るまでを見る。4時前に研究室に戻って、中途退学するという田中詠子さんと面談する。彼女が帰った後、事務の佐々木さんが来て、一般入試の応募者の今日の数値を教えてくれる。彼が行ってから、「セチュアンの善人」の昨夜読み残した後半を読み、読み終える。最後、善人のシェン・テという若い女性が神様に向かって「助けて！」というが、神々は「許しておくれ、善人捜しはもう終わったのだよ！よきかな、よきかな、セチュアンの善人よ！」といって上の方に消えてしまう。と、そこでエピログになって、演技者の一人が現れて、「お客様。お腹立ちになりませんように。わたしらにもわかちやるのです、こいつがまっとうな結末じゃないってことは。云々」という。まあ、話の途中で終わったわけだが、そこに悲しみが湧き出て来るという感じがした。読み終えた後、FT・Bコースの後期に発表された自分の以外の作品の批評又は感想を述べなさいと言うレポートに目を通した。作品の感想を書かれた人がその感想を書いた人の作品の感想をかくという相互感想ものが幾組もあった。示し合わせたとは思えなかったので、互に通じ合うものを持っているのかと思った。副手の木村さんにもちょっと見て貰って、学生たちの作品について話し合った。それから、もう何年も前の学生の映像作品を見たりもした。作品の印象が、今の学生の作品とまるで違うのを感じた。今の学生の方が素直に自分の現在の有り様を語っている。格好の付け方が違う。8時半過ぎに佃さんが終わったと言ってきたので、フィルム編集室と録音室を閉め、9時を過ぎて、B棟、暗室を閉め、ついで演劇スタジオを閉めて木村さんと下校。帰り、上野毛駅近くのNASEYAに寄って木村さんはビール、わたしは赤ワインを飲んで、軽い食事をして、いろいろな話しをした。11時廻って、わたしはタクシーで帰宅。今日の運転手さんは、環七を宮前橋で右折して茶沢通りに出て池の上に抜けた。帰宅して、リンゴ、カボチャの煮物一切れ、牛乳で夕刊を読む。そして仕事場へ下りて、blogの書き込み。

02:00:12 - shirouyasu - No comments

2005-02-25

ブレヒト作「セチュアンの善人」の半分を読む。

24日の昼間は殆ど煮物をしていたという感じだ。朝食後、サツマイモと里芋を蒸かし、トイレからストレッチ体操を終えてシャワーを浴びてる間に黒豆を入れてカボチャとゴボウを煮た。日録をノートした後、Tarckbackのテストをして、買い物に行き、軟骨を増やすというサプリメントとブルーベリーの丸薬を漢方薬局で買い、その足で小田急ガード下の文教堂で高校生用の「新世界史年表」と、Macminiの記事が載ってる月刊「アスキー」3月号を買い、パルケで豚肉、白滝、パン、レタス、牛乳、リンゴ、いちご、長ネギ、かき揚げなどを買って来た。そして、かき揚げの天ぷら蕎麦で昼食。その後、半分冷蔵庫に残っていた大根を入れた肉じゃがを作ろうとしていると、3時近く、多摩美の3年生の斉藤君から電話があり、上野毛キャンパスに行ったら、暗室を開けてくれる筈の加納先生がいないということ。そういえば、昨日加納さんに斉藤君たちに施設の鍵を開けて貰うように伝言しな

Login

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

Powered by



かったのを思い出した。それで、わたしから電話してガードマンに開けて貰おう
思って、斉藤君にガードマンからわたしに電話するように伝言したら、暫くして、
斉藤君から、それが総務に伝わり、担当の教員か研究室の誰かがいなければ鍵は開
けられないという電話が返ってきた。加納さんは7時頃まで来ないという。どうし
ようか、と電話で話していると、電話の中の斉藤君が「あっ、あっこちゃんが来
た」と叫んだ。丁度、副手の加藤晃子さんが出校してきたのだ。で、電話を替わっ
て貰い、加藤さんに鍵開けを頼んだ。斉藤君と福村さんたちが無駄足にならずにす
んだ。加藤さんは天使のように現れたわけだ。その電話の遣り取りの後、大根入り
肉じゃがを煮始めた。煮えたらもう夕方だった。コーヒーを飲んで夕刊を読む。暫
くしてカボチャと肉じゃがで夕食。それから、ちょっと仮眠、NHKの「道中でござ
る」を見てから仕事場へ下りて、ブレヒト作「セチュアンの善人」を読み始めて、
丁度まん中辺りまで読んで風呂に入った。そのころ麻理が帰宅。風呂から出て頭を
乾かしていると、イチゴに砂糖壺から砂糖をつけて食べようとした麻理が、口に入
れてゲツとなる。砂糖の壺に入っていたのが塩だった。それは、一昨日、砂糖壺に
砂糖がないと思ったわたしが、砂糖と塩のビニールの袋を間違えて入れていたの
だった。わたしは戸棚の中のその場所は砂糖が置いてあるところと思い込んでい
て、中身を確認しないで入れてしまったのだった。まあ、そんなことがあって、外
には雪が降り始めた。仕事場に来て、メールを見ると、末浪君から、このblogを見
たら、「悪い女」を見た後、彼にメールしたと書いてあったが、メールアドレスが
違って届いてないので再送して欲しいと書いてあった。そのメールには末浪君
の「浪」が「波」になっていた。そのまま届いていたら、彼は気分を書きただろ
う。申し訳ありませんでした。そしてblogに書き込む。

01:43:15 - shirouyasu - 1 comment

2005-02-24

Trackbackの練習

鱗造さんのBlogに関連させる。そのために先ずこの記事を書く。そして記事として
アイテムを追加する。

ここで、「追加プラグインオプション」の「TrackBack Ping URL:」に、鱗造さん
のblogの「2005-2-24 NucleusのTrackBackのやり方」の記事の「Trackback URL」
をコピーした。

そして「アイテムを追加」ボタンを押す。

12:41:13 - shirouyasu - 1 comment

長谷川四郎作「守るも攻めるも一墨子」を読む。

23日のトイレでは、「転換の書 メ・ティ」を読んだ。鍛冶職人と農民が結託
して生産性を向上させた話がかかれていた。注解によるとソ連の革命後のレーニン
の報告に基づいている話らしい。ここを読んで、「転換の書 メ・ティ」を読む
には20世紀前半の歴史年表がいるように思った。体操はしないで、アマゾンから
届いたばかりの文庫版の「ちくま日本文学全集長谷川四郎」を鞆に入れて、12時
前に家を出て多摩美へ。電車の中で、その文庫に入っている戯曲「守るも攻めるも
一墨子」を読み始める。乗り換えがスムーズに行って、12時半に上野毛に着い
てしまう。さくら庵でざる蕎麦を食べて、セブンイレブンで夕食のヒレカツ弁当と
ナメコのみそ汁を買って研究室へ。演劇スタジオ、B棟、暗室の鍵を開けて、研究
室に戻って「守るも攻めるも」の続きを読む。続いて福村さんが来てフィルム編集
室を開ける。内野君と居室に改造した元更衣室を覗いてみる。それからまた「守る
も攻めるも」を読む。丁度読み終わるところに、3年生の住吉さんが来て、話をし
た。彼女は2時間近く話しをして窓の外が暗くなって帰った。ヒレカツ弁当を温
めて食べる。その後、Webで「ロシア革命」を検索して、高校の先生が作っている
世界史のサイトに行き。ロシア革命から第二次世界大戦までのヨーロッパの歴史の
部分をプリントして読んだ。ブレヒトは1898年生まれ、第一次世界大戦に衛生
兵で引っぱり、戦後の異常なインフレとかを経験、ナチス政権の成立で亡命し

た。そして第2次世界大戦中はアメリカで過ごして、戦後は東ドイツに戻る。長谷川さんは1909年生まれ、ブレヒトより11歳年下ということになる。満州に行つてそこで招集されて、ソ連軍の侵攻で敗戦、捕虜収容所に入れられて、1950年シベリヤから帰還する。それから作家になった人だ。「中国服のブレヒト」は1970年から72年に書かれ、「守るも攻めるも」は1974年に書かれている。長谷川さんはブレヒトの「メ＝ティ」を読んで、墨子を読み、非戦の墨テキを主人公にした戯曲を書いた。そういう流れが面白い。9時過ぎに演劇スタジオなどの鍵を閉めて、9時半には下校。地下鉄で帰宅。リンゴを食べて、牛乳を飲んで夕刊を読んで、仕事場に下りてblogの書き込み。

00:58:57 - shirouyasu - No comments

2005-02-23

「コイナさん談義」ベルトルト・ブレヒト長谷川四郎訳を買ってきて読んだ。

昨日の夜には、今日「コイナさん談義」を買ってきて読むなんて思っていなかった。22日の今日は、トイレでは「転換の書 メ・ティ」を読み始めた。「中国服のブレヒト」で扱われていた「メ＝ティ」だ。ブレヒトの考え方が書かれている。それが読む者にとってはまた考える素材になるというような本だ。長谷川さんの文章では1970年代の時代の雰囲気伝わってくるが、直接「転換の書 メ・ティ」に当たると、第2次世界大戦前の感じが伝わってくるように感じる。ブレヒトは1933年にナチズムが成立した時に亡命している。「転換の書 メ・ティ」を読んでいて、そういえば、「中国服のブレヒト」には「コイナさん談義」という本もしきりに引用されていた、と思い、ストレッチ体操をしてシャワーを浴びた後、仕事場でPowerBook G4 17"を起動して、アマゾンで購入しようと検索したがないので、Googleで検索して、長谷川四郎訳の本が1963年に刊行されているの知った。それから、古本で検索したら、2軒の古本屋の有るのが分かった。その一軒の方の古本屋のWebページで電話番号を調べて電話したが、在庫が無いという返事。で、もう一軒の「だるまや」に電話しようとしたら、そのWebページに電話番号は無いが住所はあった。中野のブロードウェイだ。インターネットで注文もできるけど、何か会員にならないといけないので、それが厄介に思えて、直接、買いに行ってしまった方が早いと思った。昼食のカレー蕎麦を麻理と食べて、お腹が一杯になって眠くなってちょっと仮眠して、昨日の日録を書いてから、3時過ぎに家を出て、小田急で新宿乗り換えで中野で降り、ブロードウェイに行った。階段に店の配置図があったので探したが古本屋は見あたらないので、3階まで行って歩いて探すことにした。その配置図を見ていると「志郎康先生！」と女の子から声を掛けられてびっくり。とっさに顔が思い出せない。「どこで、、、」とかいうと、彼女は自分の名前を言い、胸にその名札をつけていた。多摩美を中途退学した山口晴菜さんだった。「ここにいるの、、、」とか言っているうちに、彼女は階段を下りていってしまった。それから、3階から2階へとブロードウェイの中を歩き回った。2階、3階と「まんだらけ」というミニチュアとかキャラクターとかコスチュームとかの店がやたらあって、独特の雰囲気だった。その中に小さな古本屋の「だるまや」はあった。書棚の本は全部パラフィンで包んであって、端から見ていったが「コイナさん談義」は見あたらなかった。店の主人に聞くと、さっき見た書棚から取り出してくれた。黒く薄い箱入りの本で、わたしは見逃していた。それを買って、中野通りを駅の方に歩いて行くと、途中の路地に「コーヒーの店cafe de souvenir」という看板を見つけたので、そのビルの急な階段を2階に上がった狭い店に入ってコーヒーを注文して、「コイナさん談義」を開いてみた。目次に「死んだ兵士の歌」「小市民七つの大罪」「コイナさん談義」「子供の十字軍」「あとがき」とあった。コーヒーを飲みながら、その長谷川さんのブレヒトについての入門的な説明と各作品の解説となっている「あとがき」を読んで店を出た。中野通りを歩いてガードを潜り中野駅の南口に行き、丁度来ていた渋谷行きバスに乗った。バスは夕方の街中、中野通りを南に走り、わたしは笹塚中学校前で降りる。甲州街

道を渡って、京王線の下を潜って、Microsoftが入っているNAビルの前を通って、大山へと歩いた。大山で井の頭通りに出るとまだ明るい空に丸い月が出ていた。月を見ながら代々木上原に向かって、イスラム寺院の前を通り、帰宅した。汗をかいたので今日2度目のシャワーだ。麻理が出掛けるので、お米を研いで炊飯器にスイッチを入れる。夕刊を読み終えたところでご飯が炊けて、サラダを作って、残りのカレーで夕食にした。また眠くなって、ベッドでBSの「第三の男」を見ながらうつらうつらする。それから皿と鍋を洗って、居間で「第三の男」のラストを見て、仕事場に降り、今日買ってきた「コイナさん談義」を手に取り、既に長谷川さんの訳の詩集で「死んだ兵士の歌」と「子供の十字軍」は読んでいたので、「小市民七つの大罪」と「コイナさん談義」を読んだ。「コイナさん談義」のかなりの分が「中国服のプレヒト」に引用されているのが分かった。プレヒトという人の思想の骨が書かれているという印象だ。「思想の生みの親」という断章に「希望が思想の生みの親である」と書いてあった。今日は朝起きたときには思っていなかった「コイナさん談義」の本を手に入れた日になった。読み終わって、blogの書き込み。これから、リンゴを食べて牛乳を飲んで寝よう。

00:52:34 - shirouyasu - 1 comment

2005-02-22

長谷川四郎著「中国服のプレヒト」を読み終えた。

21日のトイレでは「中国服のプレヒト」のパート8の「私有財産」のところまで。ストレッチ体操はしないで、見木久ヲ君に連絡を取る手紙を書いて、12時前に家を出て多摩美に行く。上野毛のコンビニでざる蕎麦弁当とヒレカツ弁当とジャズミン茶のボトルを買って研究室へ。「母アンナとその子供たち」の稽古のために演劇スタジオとB棟を開けてから、出校していた内野君と言葉を交わす。それからざる蕎麦弁当を食べた。そしてやってきた斉藤君のために暗室を、井上さん福村さんのために16ミリのフィルム編集室を開けた。研究室に戻って、「中国服のプレヒト」を読む。パート8の最後に凧から始まって様々な話題に展開する文章について筆者自身が「気まぐれ」と締めくくっていた。パート9は源実朝の歌から入って、ナチズム＝大秩序に触れて、大方法論＝弁証法論へと展開して、すんなりと進んでいた。そして最後のパート10は琴のことから音楽のことにになり、プレヒトは音楽を「ミズーク」と「ムジーク」に分けて、「ムジーク」の代表選手であるベートーベンが嫌いだったということが書かれていた。英雄とか運命とか皇帝とかと言うのが嫌いだと言うことらしい。そして、最後の方で、プレヒトが住んでいた東ドイツが気に入らなく中国に亡命したいと思ったらしいと伝記に書かれているようなことも書いてあった。研究室で5時半になって、最後まで読み終わらないで、夜は東急BEに行くのを忘れて買ってしまっただけで食べなくなったヒレカツ弁当を木村さんに上げて下校。上野毛から大井町線で自由が丘に出て、東横線で澁谷に行った。東急BEの9階の「蓬莱亭」でヒレカツ定食を注文して待つ間に「中国服のプレヒト」の最後を読み上げた。プレヒトの「メ＝ティ ー転換の書」をめぐる、「墨子」やその他中国の古典と照らし合わせたり、様々な書物を往還して進められる文章は不思議なものだった。余り読んだことのない長谷川さんの本を読みたい気になった。ヒレカツを食べて、8階の東急BEの「現代詩の広場」の教室へ。7時から、川口晴美さんと二人が講師になって、3人の人の詩を読んで講評した。「詩をアクションにする」なんてこともちょっと話した。9時に終わって、246を歩道橋で渡ってレストランで話し合う。今日読んだ詩の中に出てきた「モスコミュール」を注文して飲んでみた。11時頃タクシーで帰宅。夕刊を見ながら、麻理とテレビのクイズを見たが、わたしは「国民の50%がやせている国はハンガリー」一つしか回答できなかった。それから仕事場でメールに返事を書き、blogへの書き込み。

01:41:53 - shirouyasu - No comments

2005-02-21

再び黒豆を煮る、ただし賞味期限切れのやつ。

朝食の紅茶に火をつける前に、黒豆の鍋に火をつける。それから、夕方の5時まで、途中買い物に出掛けた30分を除いて煮続けて遂に柔らかくならないので、夕食のカレーを煮始める時に、食べられる程度に煮えたので火を止めた。袋に1999年5月17日製造、2001年5月賞味期限とあった。期限切れ5年だ。朝食後にトイレ、「中国服のブレヒト」のパート8は魯迅から、女中が幼い魯迅に語った話で、敵が攻めてきたら城壁に女たちが並んで敵に向かって丸裸の下半身を見せるという戦術のことが書かれ、そこから「非攻」の墨子から出た「墨守」というところに文章は進んだ。ストレッチ体操の後シャワー、仕事場に降りて、アマゾンで長谷川さんの本など2冊注文する。「極私的に遂に古稀」の編集、カットの端々を切って全体に短くする。30分ぐらいに収めたいのに43分を越えている。3分くらい詰めて、テープに書き出して見ることにして、一応書き出す。1時を廻って、自転車でパルケへ。夕食はカレーにしようと、牛肉、ニンジン、タマネギ、ついでに牛乳2本、ミカン、ドレッシング、リンゴ、そして昼は天ぷらそばにしようとエビ天と野菜かき揚げ、などなど買ってくる。エビの天ぷらそばで昼食。ビデオの編集。夕方5時頃からカレーを作り、ビデオの編集。3回目のテープへの書き出しをして、8時から「義経」を見ながら夕食。その後。仮眠。また仕事場へ降りて、ビデオの編集、短くはならない。ちょっと時間を置いてまたにしようと思う。リンゴと牛乳と角きんつば半分とサツマイモ一切れを食べたところに。麻理がお祖母ちゃんのところから帰ってきて話す。昨日見た「悪い女」の感想を末浪君にメールして、Webなど見て、blogの書き込み。

00:37:30 - shirouyasu - No comments

2005-02-20

末浪伸二作「悪い女」の高円寺明石スタジオ公演を見る。

19日の朝のトイレでは、「中国服のブレヒト」のパート8を読み始めた。北京の凧のことから、魯迅のことへと書き始められている。凧といえば、野々歩の映像作品に凧にカメラを付けて風の視線からの撮影をしたというシーンがあった。その撮影で凧の糸が切れて飛んで行き、それを自転車で追いかけるの大変だったといていた。ストレッチ体操はしないで、書肆山田の一民さんに「顔語り」の校正の直しの一カ所を電話した。その時、昨日校正と一緒に送ってくれた毎日新聞の「現代詩への期待」というコラムの記事についてちょっと言葉を交わした。そこに「いわゆる難解派とライト・ヴァース派に二極分解し、お互いに批判を投げつけている現状が現代詩にはあるらしい」と書いてあった。もはや現代詩に疎いわたしとしてはそうなのというしかない。この言葉に限ってわたしなりに解釈すると、現代詩というのは読む人より書く人の方が多いということの問題なのであろう。わたしも自分では詩を書くが、最近では殆ど読まない。読んでも、伝わってくるのは「詩を書いている」ということばかりで、書かれている内容に関心が持てない。一民さんには、詩集を作るにはあと400行ぐらい書かなければと言った。「顔語り」を書いたバラッド調で書けば割りと手早く書けるかも知れないとも言った。高円寺の明石スタジオへ行くために、雨の中、11時半に家を出た。高円寺の駅に降りたのは久しぶりのことで、早く着き過ぎたので、長谷川四郎さんの訳したブレヒトの戯曲か何かあるかも知れないと思い、これまた久しぶりに、都丸書店に行った。先ず社会科学書の店に入ってしまった、別に文学の店が有るはずだとガード下を歩いて文学の店に行った。長谷川さんの本はなかった。詩集の棚にわたしの「胡桃ポイント」があったので、値段を見ると新本で3000円が1800円になっていた。それを書棚に戻して、店を出た。南口をから、明石スタジオの方に歩いて、ラーメン屋でラーメンを食べた。明石スタジオは以前来たことがあった筈だが、印象が違っていた。末浪君は昨年の多摩美の卒業生で、「悪い女」は卒業作品の再演だ。卒業作品では自分が女装して演じていた役を今回は卒業生の女優さんにやらせていた。劇の内容は、7歳で日本の初めての女性の留学生としてアメリカの渡り、やがて津田塾

を創始した津田梅子を主人公にして、同じ女性の留学生の山川末松との交友を軸に、女性の人権の確立を描いていた。狭い空間に6つのクッション以外に装置がなく、二時間余りセリフだけで進むので、見ていて疲れた。終わって、駅近くのサイフォン・コーヒーの店でコーヒーを飲んで、チラシなどを読んで新宿に戻った。小田急でこうもり傘を一本買い、地下の食品売り場で鯖の味噌煮と鯛のハンバーグと菜の花の芥子和えと野菜の煮物と蓮のきんぴらと、五目おこわなど夕食の惣菜を買って、タクシーで帰宅した。6時頃、夕刊を読んで、麻理と夕食。麻理は即興演劇の集まりに出掛け、わたしは仮眠。それから、仕事場に降りて、メールの返事を書き、「極私的に遂に古稀」の編集に手を入れた。そして居間に行ってリンゴと牛乳と桜餅。それから、blogの書き込み。

01:11:43 - shirouyasu - No comments

2005-02-19

劇団俳優座創立60周年記念公演プレヒト作「三文オペラ」を見る

18日は、「中国服のプレヒト」を仕事場の机の上に置き忘れて、トイレでは読まなかった。ストレッチ体操の後、シャワーの代わりに風呂に入って頭を洗い、この前に入れた温泉の元で真っ黒に汚れた湯船を洗った。素っ裸で洗剤でごしごし洗い、寒くなるとお湯のシャワーを浴びるのを繰り返した。風呂から出たら12時を廻っていて、日録ノート。1時頃麻理とかけそば。芹とシメジを入れて、野村君が送ってくれた野菜を全部食べ終えた。短い昼寝。それから、一昨日、Nadjaで書肆山田の一民さんから詩集を作る話が出たので、この前の詩集「胡桃ポイント」以後に書いた詩の一覧表をExcelで作って行数を数えてみた。8編で600行弱だった。詩集にするには足りない。4年で8編は少ない。詩の原稿依頼が少ないこともあるが、依頼されなければ書かなくなっているということだ。あと400行ぐらいサツと書いてしまおうと思うが、その「詩をサツと書くやり方」を考えよう。5時過ぎて、夕刊を読んだあと、残りの肉じゃがにタマゴを入れて温めて肉じゃが丼にして早い夕食として食べて、丁度来た野々歩とちょっと言葉を交わし、6時前に家を出て、プレヒトの「三文オペラ」を見るために新宿の紀伊国屋サザンシアターへ行く。劇団俳優座創立60周年、先月見た民芸は創立55周年、「三文オペラ」は43年振り、「火山灰地」は44年振り、というのが新劇の現在なのだ。そういえば昨日、天野君たちの劇の演出している栗田君に、プレヒトの上演が多い訳を聞いたら、今年は「ドイツ年」で、補助金が出るからです、という答えが返ってきたのだ。プレヒトは場面転換が多く、ストーリー展開するという点では既に見たの二つの劇と似ていた。しかし、主人公の運命を追ってはいないが、人物に感情移入するわけではない。リアルというより社会の構造を解き明かすというほうに力点が置かれている。「コーカサスの白墨の輪」は国家という構造を解き明かしていくものだった。「第三帝国の恐怖と悲惨」はファシズムの構造を明かすエピソードの連なりだ。小田急で帰宅して、リンゴと牛乳とサツマイモ。居間のテレビで「日本アカデミー賞」の授賞式の番組を眺めるように見た。そこで話題になっている映画は一本も見えてない。映画館に行くのがなんか億劫。仕事場に降りると、書肆山田から「顔語り」の詩の校正刷りがファックスできていた。それに目を通したからblogに書き込み。

01:08:55 - shirouyasu - No comments

2005-02-18

「母アンナFとその子供たち」の稽古を見る

17日は、稽古に使う演劇スタジオをちょっと早く開けて欲しいということだったので、11時に家を出て多摩美上野毛キャンパスへ、上野毛のコンビニでざる蕎麦弁当とヒレカツ弁当を買って行った。ざる蕎麦弁当を食べてから、演劇スタジオと、B棟の部屋の鍵を開けて、斉藤君のために暗室の鍵を開けた。それから、研究

室で「中国服のブレヒト」のパート5の残りとパート6、パート7を読んだ。「最小単位」は政治の人間関係の最小単位。民主政治は説得の政治、なんてことが書いてあった。パート6は、古い「言海」という辞書のことから書き始められて、日本の古代の「まいない」ということ、それからワイロのことが書かれていた。そしてパート7は、モンゴルのラマ僧が書いた「知恵の鏡」という本のことがおもに書かれていた。長谷川さんがモンゴルを訪れたとき、修道院の僧から貰った本だという。「テントや家の内外を、おのれの顔と同じように、きれいにしておきなさい。秩序と清潔があれば、世界中の人びとが、きみのところに立ち寄り、食物を食べるでしょう」というようなことが書かれているという。そこからローザ・ルクセンブルグのことへと話しを持って行く。きつねに抓まれたような気持ちで読んでいき、最後になって、あれ、このパートは何が書いてあったんだろうと振り返っても思い出せない。本当に変な本だ。疲れたので、椅子に寄りかかってちょっと居眠り。それから、「中国服のブレヒト」の元になっている「メ＝ティ」の「墨子」をインターネットで検索して、茨城大学の中国文化専攻の[中野希美さんの「墨子の研究」](#)というページを見つけてプリントして、半分読んだところに、3年生の井上さんと福村さんが来て、後期の作品の撮り足し分の編集を今月中にしたいというので、来週の21、23、25日に出勤することにする。その話しをしているところに、シアターXの家入さんが来て、貸してあった記録用に使っているDVカメラの電源が調子が悪いというので、わたしのカメラを代わりに貸す。それから、弁当を電子レンジで温めて食べようとしていると、3年の寶楽君が来て、卒製の展示作品を作るもの同士で発表会場についての話し合いをしたいというので、B棟4教室の鍵を開けた。研究室の戻ってインスタントみそ汁にお湯を注ぎ、弁当を食べた。お茶を飲んで一段落して、演劇スタジオに行き、「母アンナとその子供たち」の稽古を覗いた。吉田日出子さんと山本健翔さんたちが稽古していた。暫く見ていたが側で見ていると見ていただけで力が入ってくる。研究室に戻ると、津ヶ谷さんと仮谷さんが来て雑談した。津ヶ谷さんが持ってきた額を、このblogではプラスチックと書いたらしいが、彼女はこのblogを読んでいるらしく、あれはアクリルですよ、といった。直しましょうといったが、もう何処に書いたかわからない。仮谷さんがわたしの手相を見て、わたしの指は彼女の指と比べたら太さが倍ぐらいあった。9時を廻って、B棟の鍵を閉め、暗室の鍵を閉め、演劇スタジオの鍵を閉め、10時前に下校。大井町線、田園都市線、半蔵門線、千代田線を乗り継いで帰宅。牛乳、サツマイモ、桜餅を口にしながら夕刊を読み、「ルームシェアの女」を見て仕事場にきてblogに書き込む。

01:32:18 - shirouyasu - No comments

2005-02-17

石井茂さんの写真集に付ける文章を書き上げる。

16日のトイレで読んだ「中国服のブレヒト」には、「最小単位」ということが書いてあった。昔は「家」、今は「個人」、党の「細胞」など。それから、長谷川四郎さんはベルリンでドイツ語訳の「神曲」を買ったということも。ストレッチ体操、シャワーの後、肉じゃがを煮始める。日録を書き終わった頃煮終わった。美味しくできた。それから、写真集に付ける文章を書き上げて書肆山田にメールで送る。麻理とかけそばで昼食。ちょっと仮眠した後、仕事場に降りて久しぶりに[「曲腰徒歩新聞」](#)の記事を書く。blogに押されて書けなかったことと、blogと「曲腰徒歩新聞」との違いを考える記事になった。それをアップ。夕刊に目を通して、6時頃、肉じゃがと昨日の麻理が食べなかったヒレカツと黒豆とみそ汁で、麻理と夕食。それから、7時近くに家を出て、小田急で新宿へ行って、「Nadja」で書肆山田の鈴木一民さんに会って石井さんの写真のファイルを返し、先ほど送った文章の感想を聞く。一民さんは文章の題名と、文中の「光の自然への回帰」という言葉にちょっとなじめないようだった。それから、今年中に詩集を作らないかという話しもあった。ありがたいことで、要望に応えたいが、できるかどうか。でも、70歳を迎えるという切っ掛けで、やっちまおうか、という気にもなる。「Nadja」では、今年の

10月から1年掛けて、毎月第3土曜日にジョナス・メカスの作品を上映しているというチラシを貰った。また、写真家の柳本さんと久しぶりに会って挨拶した。10時過ぎタクシーで帰宅。リンゴと牛乳とサツマイモと羊羹を食べて、NHKの夜のテレビ小説「ルームシェアの女」を見てから仕事場へ。山本遊子から彼女がプロデュースした[Webサイト「東京空気」](#)がスタートしたというメールが来ていたので、そのサイトを見る。ムービーの明和電気のインタビューがいい感じにできていた。今後の成功を祈る。そしてblogを書いた。

00:30:46 - shirouyasu - 2 comments

2005-02-16

青柳龍太君の個展「act 1」へ行く。

15日にトイレで読んだ「中国服のプレヒト」には、完全に変化しなくなるものは自然にはないということと、社会も変化するがその変化ばかりに気を取られて見過ごしているうちに、その変化の過程で人が殺される事もあるということが書いてあった。ストレッチ体操はせずに、12時前に家を出て、千代田線で表参道で半蔵門線に乗り換えるとき、いつものようにエスカレータを降りて歩いて行って、いつものつもりで二子玉川方面のエレベータに乗ってしまってから、青柳君の個展会場に行くには九段下で乗り換えだから、ホームを間違えた気が付いた。こんなことは初めて。降りたエレベータの前に売店があったので、LANのこととMac miniのことが出ている「ASAHIパソコン」を買って、階段を下りて反対側のホームに行ったら、丁度電車が来て乗った。車内で座ってMac miniについての記事を読んだ。WindowsユーザーがiPodの周辺機器として買うのがいい、なんて事が書いてあった。九段下で東西線に乗り換えて、神楽坂で降りて、矢来町の「AYUMI Gallery」に行く。道路に面した石の門のある二階建ての普通の家の一階がギャラリーになっていた。ガラスの格子の引き戸を開けて中に入る。入り口のところにテーブルがあって、奥の部屋へ曲がるところの床にヘッドフォンとMDが置いてあって、壁には何もなくて、ガラシとしている。青柳君のやりそうなことだと思って、床のヘッドフォンを拾って耳に付けてると、夢の中で夢に気が付くように現実で現実気が付いてくださいというようなことをいう青柳君の声が聞こえてきた。部屋の中を歩き回り、道路に面した出窓のところにあるソファに腰を下ろして、見回して、暫く経ってテーブルのメモ用紙に来たことを書いて外に出て、近くのそば屋の「尾張屋」に入ろうとしたら、後ろから青柳君に声をかけられた。で、一緒にそば屋に入って、ざるそばを御馳走して、わたしは天ぷらそばを食べた。青柳君は多摩美二部芸術学科、つまり今の映像演劇学科の前の卒業生。わたしは彼にお金をかけて空っぽの空間を見せるというより用意して人を入れるというのはいいなあ、といった。わたしはBlogを始めたが、それも空っぽの空間を作るようなものだ、もともと人は空っぽなんだから、というようなことも話した。そば屋から出て、青柳君ともう一度ギャラリーに行った。青柳君はヘッドフォンを付けて窓から差し込む日差しの中にしゃがんでいた。30歳近い青柳君が少年のように見えた。トイレを借りて出てくると、抹茶を用意して出してくれた。それを飲んでみると、戸が開いて可愛い女の子が差し入れを持ってきた。ギャラリーからまた東西線で九段下で半蔵門線に乗り換えて二子玉川で降りて、駅のスーパーで弁当を買って、タクシーで多摩美に行った。研究室で、石井さんの写真集の文章の続きを書く。「母アンナ・ファイアリングとその子供たち」の稽古はカルネさんが風邪でなしになった。3時から暗室を使うといていた斉藤君も来ない。教務主任の加納さんが来て、シラバスの原稿の直しについて話し合い、2、3年生への留年の警告の文章を作る。映像演劇学科は夜間なので時間割のコマ数が少なく履修の仕方を間違えると卒業時に単位不足になってしまうおそれがあるのだ。5時前に下校。二子玉川で乗り換えるとき、多摩川に張り出したホームの上から夕焼けの空を見た。澁谷で下車。さくらやでイーサーネットケーブルを買い、東急本店の地下の紀伊国屋でジャガイモ、カボチャ、サツマイモ、茹でタケノコ、糸こんにゃく、シジミ、牛肉の細切れ、ブラックオリーブなどを買い、更に夕食の惣菜のヒレカツ、それに五目とちりめんじゃこのお

こわを買ってタクシーで帰宅した。帰って、夕刊を読んでからシジミのみそ汁を作っていると、斉藤君から日にちを間違えて行けなかったと謝りの電話。それからみそ汁とヒレカツで夕食。麻理は隣の子たちの世話に行き一緒に折り紙をやっていたと9時頃帰ってきた。夕食後ベッドで仮眠。その後、Windows2000にネットで接続したプリンタをテストしたがどうもうまいかない。そうこうするうちに12時を廻り、blogを書いているうちに1時を廻った。

01:40:52 - shirouyasu - No comments

2005-02-15

シアターXの「ブレヒト役者と能役者」を見る。

14日は9時過ぎに起きて朝食。新聞が休刊でないで朝食が早く済む。で、朝食後、カボチャと昨日買ってきたグリーンピースを煮始める。トイレで「中国服のブレヒト」を読む。「愛の歌」で終わるパート4を読み終えて、速読術について始まるパート5へ入る。このパートはどうやら事の推移について書かれるらしい。ストレッチ体操を終えてシャワーを浴びてキッチンに行くと、カボチャは煮上がっていた。グリーンピースとカボチャはよく合う。仕事場に降りて中地美佐子さんにチョコレートのお礼の手紙を書く。12年前の彼女が多摩美を卒業した年のわたしの個展の案内状を面白い自写像なので同封する。それから、「現代詩手帖」の原稿依頼に断りの返事。そして、カボチャの煮物と黒豆とネギ入りのかけそばで昼食。ちょっと眠くなって、ベッドに横になりながら、テレビの「はぐれ刑事純情派」を見てみると、女の人から電話が掛かって、赤ちゃんが沢山出てくる詩が鈴木志郎康さんの詩ではないかと思うのですが題名がわかりますかという。わたしは忘れていたので、詩集が発表された雑誌の名前が分かれば調べますがと応じる。10分ぐらいとうとして仕事場へ。ずっと遅れていた石井茂さんの写真集に付ける文章に取りかかる。既に始めのところが書かれていたので、その続きというわけ。4時半を廻って、それを5時半を廻ったと勘違いして急いでシアターXに出掛ける。新宿乗り換えで両国へ。JRを降りて、以前入ったことのある中華の店「青葉」で、チャーハンを注文して待つ間に、時間を1時間勘違いしていることに気が付いて、餃子も追加注文する。シアターXの前のデニーズでコーヒーを飲んで、石井さんの写真集の文章の続きを考え、ノートする。針穴写真は光の自然への回帰だという論旨。6時半にシアターXへ。暫く開場を待って、受付で名前をいうと招待にしてくれた。7時から「ブレヒト役者と能役者」が始まった。ブレヒト役者のマンフレート・カルゲさんが客席から現れて舞台上がり、能役者と久し振りに会う約束だといい、彼を待つ間にと、今日朗読上演するハイナー・ミュラー作「『戦い』ードイツの光景」の説明と解説をする。その5場からなる朗読劇が始まる。途中から、能役者の観世栄夫さんが劇に加わり、場面の変わり目で、1968年頃ベルリンで初めてあったときの話しをしたりして、朗読劇が進行した。朗読劇といっても役者が簡単衣装と仮面などをつけて、演技もする。そこに観世さんとカルゲさんも加わる。芝居の内容は、チラシによると「批判的にブレヒトの作品に取り組んだハイナー・ミュラーが、ブレヒトの『第三帝国の恐怖と悲惨』に対立する構想で書いた」ものということで、ブレヒトがナチスでない市民の姿をリアルに描いているのに対して、この作品はナチスになった人々を、カルゲさんの言葉で「血なまぐさい茶番劇(ファルス)」に描いていた。「第三帝国の恐怖と悲惨」を見た後、わたしはどういう人がナチスになったのかと気になっていたもので、その回答がここにあるように思えた。ナチスは個人の小さな利害を巧みに操ったということのようだ。利己心に恐怖と垂らすとファシズムになるということなのかしら。帰宅して、麻理に赤ちゃんが一杯出てくる詩のことを聞くと、コピーを探してくれて、福音館の「子供の館」に書いた「じゅうよにんの赤ちゃんかぞく」で、詩集には収録されてない詩だった。



中地さんに送った1993年8月の写真展案内状

00:45:20 - shirouyasu - No comments

2005-02-14

エントリー用のテープをイメージフォーラムに持って行く

目が覚めたのが8時過ぎ、渡辺えり子さんの「課外授業・ようこそ先輩」を見て起床。朝食のサラダを作り始める前に、黒豆の鍋に火をつけて煮始める。朝刊を読みながら、鍋の案配を気にかける。結構、汁が落としづたを持ち上げて煮こぼれる。トイレで「中国服のプレヒト」を読む。恋愛論が易の乾坤に触れて、それが毛沢東の矛盾論に及び、更に柳田国男の「妹の力」にまで言い及んで、プレヒトの女たちについて書かれるといった筆の展開だ。「転換」はせっぱ詰まったところの変化で、その変化は矛盾によって起こり、そこに女性の力が支えとして働くといった具合。トイレから出て、ストレッチ体操とその後のシャワーを浴びて出てきたところに、宅急便で高級なチョコレートが届いた。民芸の女優さんの中地美佐子さんからだ。中地さんからチョコレートを貰うのは初めて。先日、「火山灰地」を見に行ったらお礼だと思う。それにしても、女優さんからチョコレートを貰うというのはうれしい。3月の「火山灰地」の後半も見に行く積もり。それから仕事場で日録をノートして、1時を廻って、長ネギも入れたきつねそばで昼食。麻理はおばあちゃんのところに行った。昼食を食べ終わったら2時半を過ぎて、3回ほど水を足した黒豆も柔らかくなったので火を止めた。スプーンで鍋から掬って食べたら、甘みもほどよく美味しく煮えていた。黒豆の煮物を初めてで成功。煮物に自信がついてきた。それから、仕事場で、「極私的に遂に古稀」のテープを編集して、夕方の6時頃までに20分ほど縮めて、45分になったところでエントリー用の粗編のテープとした。20分ぐらいの作品にしようと思ったけど、30分ぐらいになりそう。そのテープと、テープから取ったスチル写真をCD-Rに焼いて、地下鉄で表参道で降りて青山のイメージフォーラムに持って行った。池田さんに渡して、近くの鰻屋で鰻重を食べ、宮益坂を下って渋谷駅前のビッグカメラでプリンターのインキを買い、東横デパート地下食品売り場でレタス、グリーンピース、リンゴ、ネギ、鯛焼き、十勝大名などを買い、冷たい風の中バス停で10分ぐらい待って、笹塚循環のバスに乗った。公園通りを走って、NHKの西口から井の頭通りを通って、代々木上原駅前で降りるというコース。帰って、お茶を淹れて鯛焼きを食べた。麻理が帰ってきていたので一緒にチョコレートも食べる。それから、調子が悪いWindows 98とプリンターの接続関係を調べて、10時に居間に戻ってBSでNHK大河ドラマ「義経」を見た。リンゴと牛乳とどら焼き「十勝大名」半分。そしてまた仕事場に来た。

01:49:17 - shirouyasu - No comments

2005-02-13

小林医院は混んでいた。

トイレで「中国服のブレヒト」を読んで、ブレヒトの恋愛論が、肉体の快楽や惚れたはれたのことでなく、党という存在、仕事ということなどを踏まえた人間関係論になっているらしいということを残して、12日の今日、改めて小林医院に行った。人間は変化するから、約束は守りきれない、なんていうことも書いてあった。小林医院は入り口に靴など履き物が一杯、スリッパが足らなくなっていた。受付に、保険証と診察カードを出すと、受付のお嬢さんが診察もしますかというので、待つ人が15人近く待っていたから、薬だけと答えた。薬の処方箋を貰うだけでも10分余り掛かった。風邪の人が多いのだ。慶応堂薬局に薬の処方を頼んで、小田急高架の下の文教堂書店に行って、周辺のアプリケーションとの連携が書いてある「Final Cut Proパーフェクトガイド」という本を買った。薬局に戻って薬を買い、それから、黒豆を煮るのにいる重曹をパルケで買い、中通りの金物屋で落としづたを買って帰った。昼食を麻理は食べないというので、わたしは一人、昨日の肉じゃがと、残りのみそ汁に豆腐を入れて煮て、昼食にした。それから、1時半頃出掛けて、多摩美に行った。臨時の映像演劇学科会議。6時過ぎに下校。副手の木村さんと上野毛駅近くの幸楽飯店でわたしは野菜炒めとライスを食べて夕食にした。8時頃帰宅。夕刊を読んで、砂糖と醤油と重曹を入れた汁を沸騰させ、そこに洗った黒豆を入れる。一晩置いて明日煮る。その後、仕事場で昨日テープに書き出した素材のファイルの一覧を、Excelに書き出した。そして、要らないカットを捨てるという作業に入った。凡そ12, 3分縮めた。

00:59:04 - shirouyasu - No comments

2005-02-12

素材をタイムラインに並べる。

11日が祝日なのを忘れていた。トイレで「中国服のブレヒト」を読んだ後、ストレッチ体操をしないで、小林医院に行ってしまった。いつもと様子が違うと思いながら入り口のドアを押したら、開かなかったのようやく祝日に気が付いた。今日、薬を貰わないと、と思い込んでいたので、祝日が飛んでしまっていた。血圧降下剤などの薬がギリギリになった。で、その足でパルケに行って、レタス、トマト、リング紅玉、サツマイモ、カボチャ、羊羹、煮てない黒豆、牛乳、エビ天とかき揚げ天ぷらを買って帰った。それからストレッチ体操、汗をかいたので風呂に入り、頭を洗う。そして、日録をノートしたらもう1時を過ぎていたので、買ってきたエビ天の天ぷらそばで昼食。食後、仕事場に行って、「極私的に遂に古稀」のまだ取り込んでなかった分を取り込み始める。「自来也」公演のテープから部分を摘んで取り込みのに時間が掛かり、取り込みを夕方までに終わらなかった。疲れたのと気分転換のために、肉じゃがを煮る。夕食に麻理がないので、肉じゃがに挑戦しようと、冷凍庫にあった豚の細切れを解凍して置いた。肉じゃがは牛肉を使うのだが、牛の細切れが無かったので、まあいいや、というところ。肉じゃがは初めて煮るので、インターネットで幾つかのレシピを見て、その一つをプリントして、それを見ながら煮てみた。豚肉とジャガイモとタマネギの肉じゃが。この前に、カボチャはちょっと味が濃すぎたので、醤油と砂糖を少なめにして、美味しかった。7時前に夕食にしたが、美味しかったので食べ過ぎてしまった。食後はちょっとベットで横になった。それから、仕事場に戻り、取り込みを12月の雪の日までで、全部取り込んだ。そして、Final Cut Pro HDのタイムラインに日付順に並べて、一応、テープに書き出してみた。素材として、ほぼ67分だった。明日と明後日で、粗偏してイメージフォーラムにエントリー参考テープとして持って行こう。イメージフォーラム・フェスティバル2005の「日本招待部門」へのエントリーなのだが、招待といっても、フェスティバルディレクターの選定があって、作品の出来によっては落選ということもある。わたしの場合、まだ完成してないが、実績を勘案して貰っ

て、粗編のテープで内容を判断して貰おうというわけ。日本の個人映画作家で「古稀」を迎えるのはそうはいないと思うので、その点を買って貰いたい。作品を作り続けてきて70歳とは一体何だ、というのが今回の作品のテーマだ。それを日記的に展開する。書き出しが終わって12時を廻り、リンゴと牛乳で一休みして、このblogの書き込み。忘れるところだったが、「中国服のブレヒト」のパート4はどうやら恋愛論のようだ。それから、昨日見た「コーカサスの白墨の輪」のパンフレットを読んだ。串田和美の演出で、松たか子が主演。松たか子はどこかで見た女優さんだと思っていたら、テレビで「HERO」に出ていたのを見たのだった。わたしは本当に俳優や女優の名前を覚えられない。

01:23:02 - shirouyasu - 2 comments

2005-02-11

ハードディスクがデスクトップから消える。

10日は慌てました、何しろ、新作の取り込みファイルがあるハードディスクが突然消えてしまったのですから。野々歩と昼飯のそばを食べた後、締め切り日の今日、「イメージフォーラム・フェスティバル2005」のエントリーに持って行くためのテープを粗編してしようと思って、Final Cut Proでタイトルを作りタイムラインにドラッグしようとした瞬間に画面が消えて、マウスでクリックしたら元の画面に戻ったと思ったら、800MbのFireWireに繋いでいるハードディスクのアイコンが消えてしまったのだった。再起動しても出てこない。ハードディスク自体が認知されていないのだ。そのハードディスクをUSBで繋ぐとOK、従ってディスクがクラッシュしたのではない。しかしUSBでは、転送が遅く、テープに書き出すとたちまちコマ落ちが発生。結局、テープの書き出しが出来ないで、テープ無しのエントリーで、後からテープを届ける旨、イメージフォーラムの澤さんに電話して、エントリー用紙をメールで、ということなり、メールをしようと思ったら、インターネットも繋がらなくなっているのだった。これには参った。それで、今日からは7時からのパブリックシアターの「コーカサスの白墨の輪」を見に行くことになっていた。エントリー用紙を持ってタクシーでイメージフォーラムに届けた。その足で、ビッグカメラに行き、ハードディスクが使えなくなったときのことを考えて、200GBのハードディスクとケーブルを買い、田園都市線で三軒茶屋へ行った。ビッグカメラと車内が暑くて下着が汗で濡れて気持ちが悪い。パブリックシアターでは電話で予約した切符を買い、2階のスナック「クリック」でチキンライスを食べながら「コーカサスの白墨の輪」を見た。ミュージシャンと役者が混じって演じられる円形の舞台は、スピーディな展開で、ダンスの場面では観客も参加して盛り上がった。民芸や風の白髪が多い観客とは雰囲気がいびく違う。下層の人たちの生活に軸を置いて、母と子関係を描くことで、観客の心を掴み、楽しく進んで行くブレヒトの芝居の魅力の一端が理解できた。10時過ぎに終わって、タクシーで帰宅。直ぐに、買ってきたケーブルで接続を試したら、消えたハードディスクはちゃんと認識された。ほっとした。リンゴと牛乳で夕刊を読み、その後、テープからの取り込みをして、午前1時半を廻ったのでblogを書き込んで寝ることにする。そういえば、朝読んだ「中国服のブレヒト」に、醜女のことを「無塩女」というということが書いてあった。

02:06:15 - shirouyasu - No comments

2005-02-10

教授会、映像演劇学科会議

9日の「中国服のブレヒト」で、ロダンの言葉に「醜い女も子を亡くして悲しんでいる姿は美しい」というのがあると書かれていた。ウーマンリブはマンの協力が必要なのではないかという論旨の中に出てきた。朝読んだのにその論旨はもう忘れていた。ストレッチ体操とシャワーの後、1時に二子玉で人に会うために出掛け

た。会って、1時間ばかり、おもに聞いて、話して、その人の車で多摩美へ。お腹が空いて、近くのコンビニに行っておむすびとおでんを買ってきて遅い昼食。4時から教授会、編入試験の合格者の判定。その後、映像演劇学科会議。こちらは在校生の進級の判定など。6時過ぎ、残っていたおにぎり1個食べる。7時に卒業生の内川さんが来て、進学に必要な書類に必要な事項を書き込み、捺印。それから、「母アンナ・ファイアリングとその子供たち」の稽古場に行って、ルティ・カネルさんにビデオを渡す。先日お渡ししたわたしの詩を若干読んでいてくれて、映像的で美しいと言ってくれた。9時過ぎまで、Webでルティ・カネルさんを検索して見た。かなりの件数があった。Webでは日本対北朝鮮のサッカーは、この時点で1対1になっていた。9時半頃、加納さんと木村さんと下校。木村さんは萩原さんがいる飲み屋にDVDを届けに行き、わたしと加納さんは「ナセヤ」でスパゲッティ、ワイン、ビールなど。何故日本ではブレヒトがこんなにも上演されるのかというわたしの質問に、演劇人の加納さんは、やはり西欧への憧れでしょうと言うことだった。日本の宗教のことなども話題になった。日本人の統一への帰属を何処に置くのか、など。NHKなどテレビが統一意識を醸成しているところがある。紅白や高校野球やサッカーなど。12時近くタクシーで帰宅。夕刊、リンゴ、牛乳、角きんつば半分、カステラー切れ。テレビのスポーツニュースで2対1で日本が勝ったと報じた。仕事場へ、そしてこのblog。

01:14:10 - shirouyasu - No comments

2005-02-09

新作のビデオお取り込み

8日は、トイレで読む「中国服のブレヒト」は、パート4に読み進んだ。始めに「雌鳥が時を告げると家が滅ぶ」ということわざから、ウーマンリブのことが書かれていた。新聞を読むのに時間が掛かったためか、トイレから出たら11時を回っていたので、日録を付けて、雨が降っていたので、歩いて傘を差して、駅の向こうの寺坂歯科に行って、右の下の歯の神経を抜いて貰った。麻酔が効くとうがいも上手くできなくなる。帰って、ルティ・カネルさんにわたしの作品のビデオを渡すために、英語のスーパーがついている『内面のお話』のビデオをコピーした。それから、ネギの煮込みそばを作って食べ、カボチャとゴボウとこんにゃくを煮た。今日は、ちょっと味が濃すぎた。その後、昨日見切れなかったテープを見て、ノートを取った。野々歩が来て、仕事場に置いてあったMacG4をパソコンコーナーの方に移動して貰った。8時近く、麻理とステーキの夕食。夕食の後、ベッドに寝ころんで、「鬼平犯科帖」を見た。9時過ぎて仕事場に来て、いよいよビデオの取り込みに掛かり、1時過ぎまでに半分くらい取り込んだ。それから、リンゴと牛乳と角きんつば半分、サツマイモ一切れを口にれて、仕事場に戻りblogを書いた。もうすぐ2時になる。

01:52:01 - shirouyasu - 2 comments

2005-02-08

「母アンナ・ファイアリングとその子供たち」の稽古に立ち会う

昨日6日にアマゾンの古書で買ったブレヒトの「転換の書 メ・ティ」が送られてきていたのを書くのを忘れてた。古書ではなくて新刊だった。奥付を見ると2004年11月10日第1版第1刷発行となっていて、3ヶ月前に出たばかりだ。わたしが読んでいる長谷川四郎さんの「中国服のブレヒト」が1990年8月20日第2刷発行(第1刷は1973年2月15日)なので、てっきり古い本だとばかり思っていた。日本ではブレヒトは脈々と生きている。この2月だけでもブレヒトの劇は三つも上演されている。そしてわたしもブレヒト演劇の上演に関わることになってしまったのだ。

7日は、トイレでその「中国服のブレヒト」のパート3を読み終えた。後半は、

ヒトラーとキリスト教と労働組合の関係の中の矛盾のことが書かれて、キリスト教との関係を「苦しみを堪える手段をめぐる闘争」と捉えているのが面白い。それから「『より多く所有すれば、より少なく存在する』とマルクスはいったが、革命で到達されるであろう所有は、もう誰の所有ではないような所有であって、非所有と名づけてもいいような所有だろうと考えられる。／そしてわが国の憲法第1条の天皇は所有のシンボルであるような非存在の権化である。」という一文が出てくるので、?????つとなってしまう。この所有って何だ、非存在って何だというわけ。トイレの後、ストレッチ体操、シャワー。そして今日は日録をノートして直ぐに出掛けた。11時58分に上野毛に着いて、さくら庵できつねそば。多摩美に行って、1時からまだ暖房が廻らないB-5の寒い教室で、ルティ・カネルさん、シアターカイの上田さん、女優の吉田日出子さん、映像演劇学科長の福島さん、加納さんとサンドイッチを摘んでのお茶会。朝日新聞の記者さんも来た。わたしは、[英訳されているわたしの詩のHP](#)からのプリントをカネルさんに差し上げた。翻訳されているのは、若い頃の詩が多い。2時前に理事長の応接間で、ルティ・カネルさんたちが理事長に表敬訪問した。そして、2時頃から演劇スタジオで本読みが始まった。この本読みには同席した。吉田日出子さんを始め俳優さんたちは初めての本読みなのにもうかなり気持ちが入っていた。本読みが終わったら早速稽古に入ったが、わたしは加納さんと打ち合わせをして、弁当を取って春休みにウズベク共和国に行くという助手の太平君と3人で沖縄の話しをしながら夕食を食べた。その後、演劇スタジオに行って、俳優とダンサーと一緒に稽古を見た。8時過ぎにはダンサーたちの稽古をしていた。9時を廻って3号館から出ると、ルティ・カネルさんと通訳の菅生素子さんが帰るところだったので、一緒に歩いて、上野毛の駅に行き、二子玉川で乗り換え、澁谷まで同行した。カネルさんはオペラシティのホテルから多摩美まで来る電車の乗り換えをホームの番号など紙にノートして覚えるのに一生懸命だった。帰宅して、先ずリンゴ、それから牛乳とカステラー切れ、角きんつば半分、サツマイモ一切れを口にして、夕刊を見た。もう12時を過ぎていて、仕事場でblogを書く。

00:49:12 - shirouyasu - No comments

2005-02-07

多摩美造形表現学部3年編入試験

6日は、3年編入試験があり、9時半までに上野毛キャンパスに行かなければならないので、いつもより早起き。6時前に起きて、新聞を読みながら、朝食。トイレでは「中国服のプレヒト」を読む。ストレッチ体操はしないで、8時過ぎに出掛ける。地下鉄では座れる。受験生らしき若い人の姿が目につく。二子玉のホームで、ちらっと富士山が見えた。上野毛の降りてのど飴を買って研究室へ。打ち合わせの後、10時から午前中に、編入志願者5名、転部希望者1名の面接。午後は、2時から映像演劇学科の学科会議、学期末なので新学期の分も含めていろいろと議論したり打ち合わせたりする。6時まで。それから、わたしは檜山さんのワーゲンで途中246沿いのロイヤルホストで夕食のハンバーグとライス。彼はオムライス。そして家まで来て貰い、使わなくなったスタインバックを多摩美に運び出すための下検分をして貰う。そのことで麻理とちょっと口論するが、「義経」を見た後互いに機嫌を直す。それから仕事場に行って、新作の素材のテープを順番に見ながらノートを取る。おおむね早回しで見て、3本見たところで休憩して、リンゴと牛乳、それにサツマイモと角きんつば半分を食べる。その後、テープ3本を見て、疲れて、blogを書くことにした。

00:02:42 - shirouyasu - 2 comments

2005-02-06

新作映像作品の準備にかかる

5日。「中国服のブレヒト」のパート3を間だ読んでいます。今日のところでは、孔子の教えは孔子の時代に通じるもので、時代が変われば通じなくなる。従って、先人に学ぶものはその説ではなく、その態度を学ぶべきだという。そこから、弁証法に言い及んで、「統一体の内部矛盾をよく観察して見極めることが大切だ」ということが書いてあった。労働者は、資本の側の内部矛盾を利用するべきだといったレーニンのことも。そういえば、そういう資本と戦う労働者という存在は今の日本ではどういうことになっているのだろうか、と思った。ストレッチ体操の後、風呂に入って頭を洗う。それからネギとかぶを入れた稲庭うどんの煮込みを作って昼食。そして、いよいよ今年のイメージフォーラム・フェスティバル2005に出す作品の準備にかかる。題を「極私的に遂に古稀」にしようと思う。日頃撮っているテープの整理。先ずそのままになっていた昨年の作品に使ったテープを片づける。そして、今年作品に使うテープに日付順の番号を振る。ここまでで、3時になって、自転車で買い物に出かけ、パルケで、牛乳、干しそば、ドレッシング。カボチャ、パプリカ、ゴボウ、トマト、伊予柑、サツマイモ、角きんつば、煮干しなどを買って来た。そして、4時になって出かけて、坂の下からタクシーを拾って、青山のイメージフォーラムへ。4時半から金井さんとBクラスの卒業作品の講評、3人の作品、その中の一本は30分の作品だった。7時過ぎに近くのカレーの店でビーフカレーを食べて、7時半から中島さんと同じBクラスの6作品を講評した。10時半に終わって、タクシーで帰宅。夕刊を読んで、りんご、牛乳、大福半分、サツマイモ半切れを口にして、仕事場へ来て、blogに書き込み。

00:19:04 - shirouyasu - No comments

2005-02-05

1年生の発表会講評の後の交流会

「中国服のブレヒト」を昨日見た「第三帝国の恐怖と悲惨」を頭の置いて読んだ。ナチスがはびこっていくとき、ナチスは人々の保身と目先の利益を上手く操ったように思える。保身は周囲に合わせるといふ仕方である。そういうところが描かれていた。ストレッチ体操、シャワーをいつも通りにやる。昨日、歩いたからか、寒いからか、腰がちょっと痛い。ストレッチ体操をやっている間に、カボチャを煮た。詩を書いて、全体にちょっと手を入れて、書肆山田にメールで送る。書肆山田にメールで詩を送ったのはこれが初めて。麻理とその煮た汁でかけそばの昼食。仮眠しようとしたら、隣の何かセメントを壊す音がうるさい。野々歩が来て、かわなかかわさんが入院したといふので、[「かわごちコラム日記編」](#)を読む。確かに手術のために入院したと書かれていた。心配です。早く治ることを祈る。そうこうしているうちに3時20分に予約してあった歯医者に行くのを忘れた。4時半廻って出かける。代々木上原駅のエレベーターでホームに出たら発車して行ってしまった。表参道では一台待つて急行に乗る。立った前の座席の若い男が居眠りしていたが、澁谷で降りたので席に座れる。当たりだ。二子玉で乗り換えて上野毛へ。駅近くの幸楽飯店に入ると萩原さんがラーメンを食べていた。彼は1年生の講評がある。わたしはその後の交流会に出るように学生から誘われている。坂下志野さんと山田浩子さんの「尾占兄弟」がよかったと萩原さんと意見が一致した。萩原さんが出て行ったあと、チャーハンと餃子を食べ、駅前の八百屋でサツマイモを二個買って、鞆に入れて交差点で信号が変わるのを待っていると、非常勤講師で1年の映像を担当した映像作家の安藤紘平さんとばったり会い、歩きながら、やはり「尾占兄弟」のことを話した。研究室に行って1年生の自己紹介のテープを見て作品が印象に残った学生を確かめていると、3年の津ヶ谷さんがわたしを撮った写真を伸ばして、額に入れると、持ってきて貰ってくれといふので、貰った。彼女は写真をプラスチックの額に入れて置いていった。7時半から交流会。学生たちとその作品について話した。9時頃下校。10時過ぎに帰宅。リンゴ、牛乳、カボチャ、夕刊。「只野なんとか」といふテレビドラマを見て、仕事場へ来てblog。

01:17:01 - shirouyasu - No comments

2005-02-04

東京演劇集団風公演「第三帝国の恐怖と悲惨」を見る。

「中国服のブレヒト」は、「転換の書」の転換と言うことについて書いているパート3の中頃に魯迅の墨子を描いた「非攻」を紹介した後、「時節柄、ナショナリズムを叫んで、これみよがしに騒ぎたてるものを、考えざるをえない」という一文が出てきて、「英霊の声」という言葉も出てくるから、これは三島由紀夫のことかな、と思って、この本のまえがきをみると、この本の文章は雑誌「みすず」の1970年の七月号から1972年五月号まで連載されたところから、2年で10回だから、パート3は三島の割腹自殺に重なるのかと思える。「筆者には、ああいうのは川にはまった犬とみえる。川にはまった犬をぶちのめせ、といったのは魯迅である」と、長谷川さんは手厳しい。トイレから出て、ストレッチ体操、シャワー。今日は早く出て多摩美の学生の三人展を見てから上野毛に行こうと思って、会場の地図を見ると、九品仏からと、自由が丘から行く道順が書かれているが、田園調布の方が近いのではないかと思い、Yahooの地図を見ると、その方が行きやすいように見えた。で、家を11時過ぎに出て、澁谷から東横線で田園調布に降りた。駅が地下になってから初めて降りるので、ちょっと勘が狂った。住宅街を抜けて、環八を渡ってちょっと行ったところに、「Gallery GO」があった。佐藤さんの光の投影展示、山口君の街と空を撮った写真、中野君のスナップをリースフィルムを使ってプリントした写真、3人とも格好良かった。桜餅を食べ、福井さんがいれてくれたお茶を飲んで30分ぐらいいて、ギャラリーの前から丁度来たタクシーを拾って環八を走り上野毛駅前まで降りてさくら庵に行き、昨日のリンゴのお礼を言って、天ぷらそばを食べた。それから多摩美に行き、2時から1年生の映像作品を5本見て、5時過ぎに下校して、大井町線で自由が丘で乗り換えて澁谷に行き、山手線で新宿乗り換えて、「レパートリーシアターKAZE」に行くために東中野で降りた。新宿側に降りる階段は、20年前に新日本文学会の詩の講座に行くとき降りた階段だ。あのころ、ねじめ正一さんや伊藤妃呂美さんがわたしの講座にいた。駅前の「大盛軒」で焼き肉ライスを食べ、レパートリーシアターKAZEまで歩いた。ロビーで待っていると来る客は白髪が交じった人が多かった。7時から東京演劇集団風公演、ブレヒト作、訳・演出岩淵達治、辻由美子、酒井宗親、加藤泰斗、柴崎美納、清水菜穂子出演の「第三帝国の恐怖と悲惨」を見た。24景の中の10景を、詩とスライドを交えての上演だった。1933年から1938年までのヒトラーが首相になりオーストリアに侵攻するまでの期間の、ドイツの市民の日常の変化を、人々の恐怖と悲惨な姿を描いたものだった。家に帰ってきて、白水社版の「ブレヒト戯曲選集」2の口絵写真を見たら、見てきた舞台が1960年の「ベルリナー・アンサンブル」の写真とよく似ていた、というよりその舞台の写真を再現したという感じだった。全体主義は恐怖のウイルスに冒されて生活も社会も破壊されてしまうものなのだと見えた。その恐怖は小市民の利己心を元にして思える。9時過ぎに終わって、劇場の前からタクシーを拾って帰宅した。リンゴと、牛乳と、サツマイモを口にしながら夕刊を読み、仕事場に来て、昨日の続きの詩を書いて、それからこのblogを書いた。

00:33:53 - shirouyasu - No comments

2005-02-03

多摩美映像演劇学科1年生の発表会

トイレでは「中国服のブレヒト」のハンナ・アレントのところを読み返す。アレントのブレヒト批判が気になる。その後ストレッチ体操、シャワー、日録ノート。12時頃家を出て代々木上原駅に向かう途中、風が冷たい。テレビの大雪のニュースと違い青空に白い雲。中学校の建物を壊して工事しているところに空が大きく広がっている。千代田線、半蔵門線、田園都市線で二子玉乗り換え。多摩川に張り出したホームから雪で白い丹沢山塊が見える。大井町線で上野毛下車。さくら庵に

行ったら、萩原教授がラーメンを食べ終わったところだった。2, 3, の言葉交わす。おかめそばを注文。厨房からそば屋の主人が出てきて、長野から送ってきたという新種のリンゴ「秋映」を「美味しいですよ」と二個くれた。そばを食べ終わって、多摩美上野毛へ。再提出されたDV作品を副手の加藤さんから受け取る。2時から、映画館の椅子を入れた映像スタジオで8本の映像作品を見て、本館で漫画とかアニメーションとか写真とかオブジェとかを見て、A4にプリントして貼り合わせて大きくした写真の屋外展示とか、寒いなか、ガラスケースを倒して椿の花を散らした中庭で、女子高校生の制服を着て、目隠しして、5時間歩いたり座ったりしているパフォーマンスを見て、6時前に食堂で「東学セット」を食べた。一度研究室に戻って、演劇スタジオに行って、演劇を見て、それから鏡の間で、水を張った居間を作ってそこで繰り広げる演劇的パフォーマンスを見て、また演劇スタジオに行ってインドダンス風に振り付けされたダンスパフォーマンスを見た。そして、研究室に戻って、再提出のDV作品を見てから、9時を廻って下校した。帰宅して、さくら庵で貰ったリンゴを食べたが、さくさくして甘みがあってなるほど美味しかった。それから、昨日の詩の続きを書いた。

00:11:03 - shirouyasu - No comments

2005-02-02

「母アンナ・ファイアリングとその子供たち」の顔合わせ

1日、10時ちょっと前に家を出て、小田急、新宿からJR総武線で両国へ。東口の階段から出る。この階段は、日大一中日大一高と1950年前後六年間通った階段、階段そのものは変わっていない。11時ちょっと前について、シアターXの前のファミレスでコーヒーを飲んでトイレを使う。それから、ギャラリーXで「母アンナ・ファイアリングとその子供たち」のスタッフとキャストの顔合わせと稽古始め。顔合わせでは、演出のルティ・カネルさん、吉田日出子さんなど初めて顔を合わせる人ばかり。吉田日出子さんは大きな犬を連れてきた。ルティ・カネルさんは演出方針とブレヒトについての彼女の考えを語った。イスラエルという戦争のある国から戦争のない国の日本に来た彼女は、戦争を個人を押しつづす大きな力のメタファとして捉えて、社会に於ける個人というものを、自分を押しつづす力に屈するかどうかと云うことを描きたいと、また監督がスタッフキャストを黙らせるの云うのもテロで、そういうテロと向き合う演劇として共同作業を進めたいということだった。ブレヒトについては、一つは世界は様々な構成要素から成り立っていて、それぞれの要素は操られて統一しているが、その操りの糸を見極めること、もう一つはオブジェクトは意味を持つが、その意味を与えるのは人間であり、その意味に責任を持たなければならない。その意味の可能性を信じるところに芸術が生まれると考える。慣れたことから脱して新しい意味を求めるとのこと。ルティ・カネルさんは話しを、芭蕉の古人の跡を辿るのではなく、古人が求めたものを求めるという言葉から始めたのだった。ルティ・カネルさんの話の後、スタッフの紹介とキャストの自己紹介があって、顔合わせは終わった。休憩の後に、スタッフは閉め出してキャストだけの稽古ということだったので、わたしはルティさんに自己紹介して、退出した。そして、両国駅に行く途中のそば屋で天ぷらそばを食べた。それから、JRで錦糸町に出て地下鉄半蔵門線で澁谷に行き、ブックファーストで本を見て、STUDIO MXの解説本とブレヒトの演劇論とブレヒト関係の本を一冊買い、ハンナ・アレントの本を見て、ブレヒトを非難しているという文章を探したが見つからなかった。だた、アレントについての本で、アレントがブレヒトばかりでなく知識人の革命に対する「同情」によって革命政府の全体主義に取り込まれてしまうことについて論じているということが書いてあるのを本棚の前に立って拾い読みした。アレントが、ブレヒトを全体主義との関係で論じているということは、長谷川四郎さんの「中国服のブレヒト」では分からなかった。ブックファーストの入り口のコーヒーショップコーヒーを飲んで一休みして、携帯で家の麻理に電話して、夕食の惣菜を買っていくといい、東急本店の地下で、オリーブの瓶詰めと缶詰、鯖の味噌煮、ぶり大根、野菜の煮付け、小松菜の芥子和え、五目と栗のおこわを買っ

て、タクシーで帰宅。タクシー代980円。夕刊を読んで、メールに返事を書いて、夕食、仮眠、それから仕事場に来て詩を書いた。風呂に入ってからリンゴと牛乳と、野村君が送ってくれた種子島産のむらさきいもを食べて、再び仕事場でblogに書き込み。

01:19:32 - shirouyasu - No comments

2005-02-01

多摩美4年有志新年会

31日夕方6時を廻ってもう暗くなった道を歩いて上原駅に。澁谷から東横線通勤特急に乗って自由が丘で降りて改札を出たら、4年の横溝さんと北さんがいた。暫く待って卒業生の村上さんと三浦さんが来て、4年の戸田さんと青柳さんも来たので、「居心伝」という店に行った。高田君、尾崎君、浜田さん、佐々木さん、卒業生の三宅君とそろったところで、めいめいが注文した飲み物で乾杯。後から、竹内さん、橘川さん、益子さんも参加。テーブルを挟んで前に座った者、隣に座った者で話しをした。わたしはもっぱら両隣の三浦さんと橘川さんと話した。それから橘川さんと席を替わって佐々木さんと。彼女はおばあさんを撮影したいが、撮ってそれがどういう意味かよく分からなくて撮らなくなった、というので、作品にして発表すると、彼女のおばあさんが好きという気持ちが波紋を作って広がっていくのだと話した。遅くなって来た篠崎さんと卒業生の小沢君がわたしの近くに来たので、篠崎さんとはいろいろと話した。篠崎さんは明治時代の男爵の孫に当たるといって話した。彼女の頭脳の回転の速さと時折見せる鋭い視線から発せられる言葉は、そんな血筋と関係あるのかも、と思ったりした。帰るころ、竹内さんは眠い眠いといっていた。12時を廻ってタクシーで帰宅した。

02:05:11 - shirouyasu - No comments